

一貫作業システムによる再生林の低コスト化

1. 出雲地区森林組合(出雲市)

【管轄】出雲市
 (旧出雲市、旧平田市、旧簸川郡内5町)
 【民有林面積】36,071 ha
 【設立】H10年10月1日に6組合が合併
 【従業員】62名(組合員7,676名)
 【事業量】707,784千円(R4年度)
 【業務内容】森林づくり事業、木材加工事業等

2. 取組の経過及び概要

原木の生産(伐採)コストと木材収入だけを比べると収支は黒字だが、伐採後の再生林に要する経費が負担となり、森林所有者が意欲的に原木生産に取り組むことが困難な状況。

そのため、原木生産コストの引き下げに加えて、再生林コストの引き下げも併せて実現していくことが必要。

(1)主伐を行う『まるい林産(株)』(伐採者)と造林・保育を担う森林組合(造林者)で一貫作業の協定を締結。



一貫作業とは

これまで(従来作業)は、伐採後期間を開けて造林者が人力により地拵えを行うため、再生林経費がかかり増し。一貫作業では、伐採者が伐採作業に使用した林業機械で「機械地拵え」を行い、造林者が伐採後早期に植栽を実施することで、再生林の低コスト化を実現。
 (地拵え・・・残材等を植栽しやすいように整理すること)

(2)協定締結による連携強化

R5年度、国、県による造林補助事業によりスギ裸苗を1.93ha植栽。(植栽密度2,000本/ha)

現場ごとの地拵え状況を確認し合うなど、伐採者と造林者の連携を強化。



3. 取組の成果

(1)再生林コストの低減

	再生林コスト (万円/ha)		
	H30	R5	R5/H30
県平均	114	100	12%ダウン
出雲	105	86	18%ダウン

①伐採者と造林者による事務協議と現場協議を繰り返し行うことで、人員や機械の工程調整が図られコスト低減に寄与。

②伐採者が機械やチェーンソーを用いて残材を細かくすることにより、造林者の作業が人力による刈り払いとレーキ(熊手)による軽作業のみに軽減。

(2)現場連携による改善意識の向上

苗木の仮植場所を伐採者の機械で耕すなど、建設的なアイデアが提案され、現場における工夫等、自ら改善する意識が向上



地拵え前(従来、数年後に植栽) 一貫作業による地拵え・植栽後

枝残材などが散乱せず、林内が整理されているため、その後の保育作業を効率的に実施可能。
 また、残材による植栽不可の除地面積も減少するため、林地を最大限有効活用。

4. 課題と今後の取組方向

(1)効率よく作業できる環境づくり
 一貫作業に係る伐採者、造林者の事務協議や現場協議等を明記した仕様書を作成。

(2)円滑な一貫作業の実施
 裸苗からコンテナ苗への移行を検討。